

インフラマネジメント研究部会

# 座談会 コロナ禍に勝つ!

部会長 **中川 均**  
なかがわひとし



一般社団法人日本観光自動車道協会  
代表理事

● ゲストスピーカー

**佐藤 寿延** さとうひさのぶ 国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 課長

**大枝 真一** おおえだしんいち 独立行政法人国立高等専門学校機構 木更津工業高等専門学校 情報工学科 教授

毎年恒例の「秋の夜学校」、いつもですとインフラセツトマネジメントの初級コースを中心に進めています、今年は「コロナ禍に勝つ!」というテーマでお2人のゲストをお招きして座談会を開催いたしました。

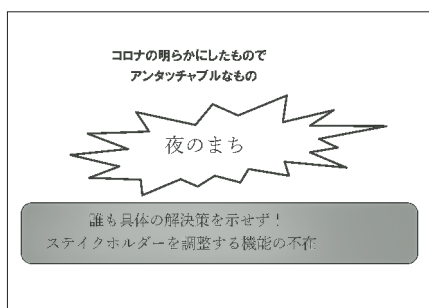
お一人目の佐藤課長からは、「夜のまち」と呼ばれた都市の暗部に焦点を当てたコロナ禍の影響と今後の経済成長のあり方について諸外国の例を参考にお話をいただきました。テーマは「自立的な地域社会やレジリエンスを妨げる社会構造 コロナの課題は何か、コロナ禍でのFM対応」でした。この原稿を執筆している現在も緊急事態宣言下であり、「夜のまち(飲食)」をピンポイントにねらった感染防止策がとられています。この対策による経済への負の影響は計り知れないものがあり、イギリスではそのGDPの約6%が「夜のまち」関連のシェアだそうです。この数値をわが国にあてはめると約80兆円に相当しますが日本ではこの分野におけるデータギャザリングの仕組みが未整備のため経済規模の捕捉ができていませんが、相当なダメージが国内市場に影響していると考えて間違いのないでしょう。所を変えてオランダやイギリスでは「夜のまち」を行政・住民・事業者、それぞれがWin-Winの関係になるために「ナイトメイヤー(夜の市長)」という制度をおいて経済の活性化に努力していることが紹介されました。まさに「夜のまち」

のファシリティーマネジメントの実践事例として大いに参考となります。

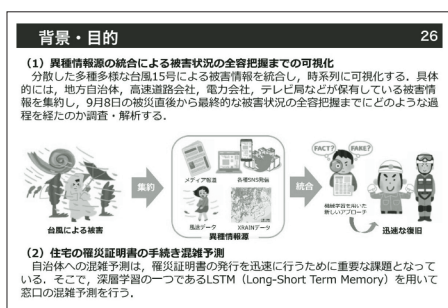
お二人目は、JFMAタスクフォースとして関与しております「高専生によるインフラマネジメントテクノロジーコンテスト2020」に参加した国立高専の中からデータサイエンス分野、特にAIの活用がご専門の木更津高専大枝教授に、南房総市において発生した一昨年の豪雨災害時の災害情報が住民避難に活用されるための課題を報告いただきました。住民に対して避難情報が行政・道路事業者・メディアと縦割りにしか提供されず、必要な情報がシームレスに与えられていない現状について課題として紹介されました。特に各セクターからの情報公開に対しては災害時に大きな課題があることが分かりました。

また高専という教育機関について簡単なお話をいたさんと同時に、今回のインフラテクコン2020への期待もお話いただきました。

その後の座談会では大枝先生から、佐藤課長が提起された「ナイトタイムエコノミー」にビッグデータやAIというアプローチについてのコメントや佐藤課長からは国交省所管の河川に関する情報公開の現状についてコメントがあり、短い時間ではありましたが充実した座談会となりました。◀



図表1 国交省総合政策局公共事業企画調整課佐藤課長資料抜粋



図表2 木更津工業高等専門学校情報工学科大枝教授資料抜粋



図表3 ステッカー-出来上がりイメージ\_丸